

## 【令和7年度(2025年度)教育学部FD研修会】



# Faculty Development Invitation

UNIVERSITY

	日程	題目	講師
第1回	7月23日	進学指導に関わる高校の現状について ～全国会議資料と学校訪問からわかること～	小林智先生 やまなし小学校 教育講座
第2回	11月5日	高校での必修科目「情報Ⅰ」の学 びと共通テスト「情報Ⅰ」 山梨大学での接続を見据えて	稲垣俊介先生 附属教育実践 総合センター
第3回	12月3日	やま小の “これまで”と“これから”	尾見康博先生 やまなし小学校 教育講座

### 【第1回】「進学指導に関わる高校の現状について～全国会議資料と学校訪問からわかること～」

小林 智

文科省の地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業の下、高大接続事業等において本学部と県教育委員会との連携・協働を担うコーディネーター教員となりました。その立場から本研修では今後の広報や入試の参考となるよう、高校訪問や高大接続に関する報告等から導き出される高校の進路指導の現状について情報を提供いたしました。高校卒業後の進路状況の推移、大学入学者選抜改革の進捗状況等をお伝えし、さらに、県内高校の訪問から明らかになった高校生の教職志望状況、教員養成学部への進学状況、本学部に対する高校生・保護者の印象等についてもご報告いたしました。また、県内高校の年間行事から効果的な事業の在り方もご提案いたしました。今年度から本学を会場とする高校生対象の企画もさらに充実させ、参加者から好評価をいただいております。今後も教員養成の充実のため高大連携の取組へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

### 【第2回】高等学校での必修科目「情報Ⅰ」の学びと共通テスト「情報Ⅰ」

稲垣 俊介

高等学校情報科の現状と本学における教員養成との接続について、高等学校での必修科目「情報Ⅰ」の学びと大学入学共通テスト「情報Ⅰ」を切り口に報告しました。全国学力・学習状況調査で出題された小学校・中学校の国語の問題を例に、国語科と情報科との関連を示しつつ、言語能力と情報活用能力がすべての学習の基盤として位置付けられていること、「情報Ⅰ」が他教科とともにその育成を担っていることを確認しました。また、大学入学共通テスト「情報Ⅰ」の出題範囲と代表的な問題を紹介するとともに、生徒間で情報活用能力の格差が生じている現状を共有しました。本学に入学する学生のこれまでの学習環境の多様化を踏まえ、各教科や教育相談等の授業において情報活用能力の育成をどのように位置付けるかを、学部全体の課題として提起しました。アンケートでは、高校情報や共通テストの具体像を初めて把握できたことや、言語教育との接続をさらに深めたいとの声が寄せられました。





### 【第3回】「やま小の“これまで”と“これから”」

尾見 康博

やまなし小学校教育コース（やま小）のこれまでの振り返るとともに、今後の展望や課題について感じていることをお話ししました。

教育学部の地域枠入試の合格者を1つの教育組織（やま小：発足当時は山梨県小学校教員養成特別教育プログラム）として対応づけているのは全国的に珍しいことです。そのことは、（ダブルカウントとなった）担当教員に負担を強いた反面、地域枠入試合格者に対して、独立した責任ある教育体制を用意したことも意味します。

本コースの専門科目は、山梨県のすぐれた小学校教員を輩出すべく、現代の小学校教員に求められる多様な内容になっており、その多くは、他コースの先生や、附属学校園、教職大学院などの多大な協力をいただいて成り立っています。

予算削減や人口減少といった状況のもとで、いかに他コースと差別化しつつ連携を図っていくか、また、学部全体で定員割合が大きくなった推薦入試をどのように合理的に運用していくかが、本コース（そして本学部）の未来にとって今後の鍵になると考えています。



### 附属学校園での研修報告



#### 言語教育講座（全学共通教育センター兼任） 久保 佑輔

2023年4月に本学に着任し、初任者研修の一環として、6月25日に附属小学校にて研修を受けさせていただきました。当日は、附属小学校の樋惇紀先生による5年生の社会科、体育科、外国語科（2時間）の計4時間の授業を参観いたしました。いずれの授業においても、児童が問題解決に向けて主体的に考える時間が意図的に設定され、教師と児童、あるいは児童同士の対話が豊富に行われていた点が非常に印象的でした。私は英語教育を専門としているため、以下では外国語科の授業を中心に報告いたします。

参観した外国語科の授業では、「今度の夏休みに日本に遊びに来るALTの家族に、山梨のおすすめスポットを伝えよう」という目標が設定されていました。授業の導入では、教師が活動の目的や場面設定をクラス全体で共有した後、目標達成に向けて児童が個別に練習する時間が設けられていました。この個別学習の時間では、ICTを活用して発表内容を整理する児童や、友達同士で発表練習を行う児童など、それぞれが自分に合った方法で学習を進めていました。また、教師が適宜クラス全体に向けて、「ALTの家族に向けた発表である」という目的や相手意識に基づいたフィードバックを行うことで、目標達成に向けた児童の自己調整力や自律的学習を促している様子がうかがえました。自分の考えを伝えることにとどまらず、伝える相手を意識した発表内容の構成を目指し、児童が主体的に課題に取り組めるよう授業が運営されていた点に、深い感銘を受けました。

本研修を通して、児童生徒を第一に考えた授業を構想・運営する資質・能力を備えた教員の育成に携わっていきたいという思いを、改めて強くいたしました。最後に、本研修を快く受け入れてくださった附属小学校の皆様、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

## 生活社会教育講座 渡邊 瑛季

2025年7月1日に附属小学校4年1組の授業を3校時から6校時まで参観させていただきました。教室に入室して印象的であったのは、教室前方の黒板の左側に、社会科関係の用語を中心とした言葉のシートが数多く貼りつけられていることでした。

6校時の社会科は水道に関する単元の最終段階の授業でした。「もしも水道水が使えなくなったらわたしたちは生活できるか、生活できないか」という教員の発問に対し、大半の児童は「生活できない」という立場でした。次に教員は「水道はなぜ当たり前になったのか」と児童に問うと、児童のひとりには「ニーズがあるから」と回答しました。私は4年児童がニーズという言葉の的確に使うことに驚きましたが、教員は即座に黒板左側の言葉のシート群から「ニーズ」と書かれたシートを取って黒板に貼ったため、シートを見て児童が理由を思考していることがうかがえました。次に教員は甲府市上下水道局職員の「たくさん水道を使ってほしい」「大切に水道を使ってほしい」という言葉を紹介し、行政が水道事業を担う目的に「当たり前」すなわち「公共性」が存在することを児童に認識させていました。

今回の研修を通し、水道のように世の中に存在するしくみは所与のものではなく、人のニーズや快適な社会生活の実現のために意図的に構築されてきたことを、児童に発言を求めつつ深く考えさせることは、中学・高校での社会科系教科の学習の基盤になると強く認識した研修になりました。

## 科学教育講座 西森 康人

研修では中学1～3年生の数学の授業を参観しました。私がまず最初に、そして最も驚いたことは、すべてのクラスで一様にタブレット端末を活用した授業が行われていたことです。中でも特に印象的であったことは、問題の解答を発表する際に、ある生徒が自分の考えをタブレットに書き込みながら説明し、それが大きなモニターに投影され、クラス全体で共有されていた場面です。私は昨年まで工業高専で授業をしておりましたが、ノートパッドで講義ノートをとる学生の姿に時代の変化を感じたばかりでした。中学生の段階でここまでICTが学習の中心に組み込まれていることには新鮮な驚きがありました。生徒達が各自の端末で考えを整理し、まとめ、それを発信してリアルタイムに全員で共有するという授業スタイルは、これまで想像することもありませんでした。このような授業が可能である背景には、ICT環境が整っていること、それを前提とした授業設計や授業研究がなされていることがうかがえます。そして、生徒達は自分で考えたり、それを他の生徒と共有したりする姿からも、ICTを活用した主体性・協働性を育む授業が効果的に実践されていることを実感しました。

## 教育実践創成講座 鈴木 健一

貴重な機会を提供くださった附属小学校の先生方、児童のみなさん、事務局の皆様にご挨拶申し上げます。ありがとうございました。

職員室へのあいさつを済ませると、そこに居合わせた2年生児童が“次は道徳で「お風呂プール」なんですよ”など、移動中に話をしながら教室に案内してくれ、穏やかな雰囲気を感じました。授業では、教師や友達などの話し手に対する聞き手の児童の眼差しに日頃のご指導の積み重ねの成果を感じました。人物の気持ちが変わった理由を意見発表する際には、想定を越えた児童の豊かな感情が表出する場面に遭遇し、子どもの感受性と心の広がり無限大であることを改めて感じました。

公開研究会の事前授業で関わりのあった4年生は、体育科での学びを素材とした国語科の新聞づくりに取り組んでいました。友達との意見交換や私へのインタビューなど、タブレットを活用して情報収集・選択をし、技の動きや練習方法、創作した「CRAF跳び箱」の表現の魅力などの内容を柱立てしてしていました。そこでは、どんなに科学技術が発展しても、自己の意見を伝えるとともに他者の意図を汲み取って考えを認めたり、それらを活かして考えを広げ深めたりする上で、思考を伴ったコミュニケーションが欠かせないことを確信しました。

学部や大学院の授業などで教育に関わることのすばらしさを伝えるとともに、自身の研究を深化・発展することに勤しむ決意を深めることができた研修でした。

## 教育実践創成講座 蕨 知英

私は英語教育を専門としており、公立中学校での勤務経験があるため、初任者研修では附属中学校の英語科の授業を見学しました。授業では「YouTuber として渋谷でインタビューする」という設定の中で、①各自の関心に応じてテーマと質問を自由に決定、②聞き取った内容をメモ、③クラスメイトと確認、④全体で共有、⑤画面上で情報を統合、という手順で進行していました。前時の復習には Kahoot を用いて、クイズ形式で既習表現の確認をしていました。さらに、ロイロノートでワークシートを配付、画面提示をしながら模範解答をオンライン上で追記、回収というペーパーレスでの運用が実現していました。このように、一人一台端末の環境を活かした情報整理・復習・提出管理がシームレスにつながっている点が印象的でした。

一方で、ロイロノートの導入状況は自治体により差があること、iPad はコスト面から導入校が限定され多くの学校では Chromebook が用いられていること、また Kahoot などのアプリの有料機能の使用は教員の裁量に委ねられていることを知り、子どもたちの教育環境の充実とコストの折り合いが難しいと感じました。

本見学を通じ、現場での様々な制約を乗り越えながら、従来は実現困難だったことを可能にしていくという視点で ICT 機器を捉えていく必要があると感じました。見学の機会を提供してくださった附属中学校の先生方に深く感謝申し上げます。

## 教育実践創成講座 渡邊 志織

2025 年 4 月に本学に着任し、同年 6 月 30 日に初任者研修で附属中学校にお世話になりました。

私の専門が教育行政学であることから、特定の教科に限定せず、1 年生の数学と道徳、2 年生の技術、3 年生の英語と社会など幅広く様々な学年の授業を拝見しました。多くの授業でタブレットや電子黒板が効果的に活用され、生徒の意見共有や振り返りがスムーズに行われている様子が印象的でした。教科学習を通して ICT 活用力が自然に育まれていることを実感しました。特に心に残ったのは社会の授業です。日中戦争期の政策や社会の変化を扱う単元では、生徒の問題関心を引き出す発問を軸に、考える→話し合う→発表するという流れが丁寧に設計されていました。先生が一方的に説明するのではなく、問いを重ねながら生徒の思考を深めていく授業運営に、発問力と応答の受容の重要性を改めて学びました。

また、副校長の加藤先生には、教職員の年代構成や働き方改革、施設設備の工夫など、学校運営に関して多角的にレクチャーしていただきました。教育活動を支える制度の運用を学ぶ貴重な機会となりました。

研修全体を通して、授業の背後には、先生方の創意工夫と丹念な準備があることに気づかされ、教育現場への理解が一層深まるとともに、ICT 教育や学校運営など多様な教育課題に積極的に取り組む附属中学校の姿勢に深い感銘を受け、今後の研究につなげたい多くの示唆を得ました。

# Faculty Development Invitation No. 43

発行日：2026 年 3 月 23 日